

令和7年度 第4回 学校運営協議会

1 日時 令和8年2月12日(木) 午前9時30分から11時まで

2 場所 静岡南部特別支援学校 3階 小会議室

3 出席者

(1) 学校運営協議会会員

地域コーディネーター、西豊田地区社会福祉協議会 企画運営委員長、NPO 法人ひまわり 副理事長、小鹿こども園 園長、静岡済生会療育センター令和 療育支援課主幹、西豊田小学校 PTA 副会長、本校 PTA 会長

(2) 本校職員

校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事・訪問主任、教務主任

4 内容

- ・開会、校長挨拶
- ・令和7年度学校自己評価報告
- ・令和7年度学校関係者評価
- ・令和8年度学校経営計画について
- ・校長挨拶、閉会

5 議事録

(1) 校長挨拶

静岡南部特別支援学校は、令和8年度末(令和9年3月)をもって閉校することが決定しました。医療や社会情勢の変化に伴い、児童生徒数が激減しており、集団での豊かな学びを提供すべきであると考え、苦渋の決断ではありますが、閉校することとしました。閉校後、児童生徒は中央特別支援学校に在籍することとなります。学校は、これまでの73年にわたる歴史と理念を大切にしつつ、閉校までの期間、県教育委員会や関係機関と連携して円滑な移行に向けた支援を継続する方針である。

(2) 令和7年度 学校自己評価の報告

学校経営の3つの柱に沿った評価と活動状況の報告。

・ 守り認め合う(安全・安心)

危機管理マニュアルの改訂や、予告なしの避難訓練、交通安全教室などを実施し、高い評価(A)を得た。児童生徒同士の関わりについては支援の工夫が必要としてB評価となった。

・ 学び高め合う(専門性)

児童生徒一人ひとりの実態に応じた授業実践や、ICTを活用した訪問教育との交流、校外学習(修学旅行や水族館)、栽培活動(カブの栽培・調理)など、五感を通じた学習に注力してきた。

・ 繋がり合う（連携）

近隣の西豊田小学校、視覚特別支援学校、中央特別支援学校との交流、ロータリークラブとの交流、地域の方とのポッチャなどを通じ、社会性の向上を図ってきた。

（3）学校関係者評価（委員からの主な意見）

- ・ **安全管理:** 実践的な避難訓練の実施や、校内の不良箇所の迅速な改善が評価された。一方で、重度の障害がある生徒も可能な限り訓練に参加できるよう配慮を求める意見もあった。
- ・ **学習・評価:** 他者との比較ではなく、「個人内評価」の視点を継続し、小さな成長を丁寧に拾い上げてほしいとの要望が出された。
- ・ **自己決定の支援:** 障害が重くても、視線の動きなどで意思表示をする「自己決定」の機会を大切にしてほしい。
- ・ **交流の意義:** 地域や同年代との交流は、児童生徒だけでなく地域住民にとっても障害への理解を深める貴重な機会であり、閉校後もこうした繋がりを大切にしてほしいとの声が多く上がった。
- ・ **保護者支援:** 外出の機会や保護者同士の悩み共有の場が、家族の安心感に繋がっていることが再確認された。

（4）令和8年度 学校経営計画について

- ・ **教育目標:** 「自ら学び 生活を高める 心豊かな子」引き続き取り組んでいく。
- ・ **今後の方針:** 委員からの意見を反映し、個々の実態に即した支援と、閉校に向けた丁寧な環境づくりを進めていく予定。
- ・ **経営の柱の再編:** 今年度の「守り認め合う」「学び高め合う」「繋がり合う」の3本の柱に、新たに「支え合う（チーム）」を加え、4本の柱とする。これは働き方改革や教職員の専門性向上を組織として支える意図がある。
- ・ **心理的安全性の重視:** 安全・安心な学校生活のため、物理的な防災対策（センターとの連携や予告なし訓練など）に加え、児童生徒や教職員が互いを認め合う「心理的安全性」を第一に掲げる。
- ・ **学習支援とICTの活用:** 重度重複障害児の目標設定を明確化し、学部会等で授業改善を行う。ICTを活用したコミュニケーション支援に注力し、個々の「伝えたい」意欲を育てる。
- ・ **中央特別支援学校への移行準備:** 令和9年度を見据え、令和8年度は中央特別支援学校の同世代との交流を深め、スムーズな移行を図る。環境の変化に対する児童生徒の不安を軽減するための配慮が重要であるとの意見が委員から出された。

（5）終わりに

- ・ 令和8年度卒業式は令和9年3月15日（月）午前中、閉校式は令和9年3月16日（火）午後、に挙行予定。二日連続となりますが、ぜひ御出席をお願いします。

